

平成 29 年 12 月 25 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社  
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭  
(コード番号 1605 東証第一部)  
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 細野 宗宏  
電話番号 03-5572-0233

インドネシア共和国 マハカム沖鉱区に係る鉱区返還と 2018 年以降の鉱区参画に向けた状況  
及びインペックスアタカ鉱区の鉱区返還について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、インドネシア共和国東カリマンタン沖合に位置するマハカム沖鉱区及びインペックスアタカ鉱区において、原油・天然ガスの開発・生産事業を行っており、両鉱区は 2017 年末に現行生産分与契約の期限を迎えます。両鉱区における当社の今後の対応について、以下の通りお知らせいたします。

1. マハカム沖鉱区は、2017 年末の現行生産分与契約期限をもってインドネシア政府へ返還され、2018 年 1 月 1 日よりインドネシア国営石油会社である Pertamina 社が新生産分与契約に基づき同鉱区の全権益を保有した上で、現オペレーターである Total 社より操業を引き継ぐこととなります。引き続き当社は、Total 社と共に同鉱区への参画を目指し、インドネシア政府当局及び Pertamina 社と協議を継続してまいります。
2. インペックスアタカ鉱区につきましては、当社は、2017 年末の現行生産分与契約期限をもって同鉱区をインドネシア政府に返還することとなります。今後、インドネシア政府当局及びアタカユニット（※）のオペレーターである Chevron 社の協力の下、インペックスアタカ鉱区の返還に係る手続きを進めてまいります。  
(※) インペックスアタカ鉱区とその北側に隣接するイーストカリマンタン鉱区の一部を統合して設定したエリア。

なお、本件による当期連結業績への影響は軽微です。

以上

# 国際石油開発帝石株式会社 INPEX CORPORATION

## 【マハカム沖鉱区・アタカユニットの概要】

プロジェクト名	マハカム沖鉱区	アタカユニット
権益取得年	1966年	1966年
生産開始年	1974年	1972年
現行権益保有者	Total社： 50%（オペレーター） 当社： 50%	Chevron社：50%（オペレーター） 当社： 50%
累計生産量 (2017年末まで)	原油・コンデンセート：約15億バレル 天然ガス：約19兆立方フィート	原油・コンデンセート：約7億バレル 天然ガス：約2兆立方フィート

## 【マハカム沖鉱区・アタカユニットの位置図】

